

新規事業評価調書

【木質バイオマス利用促進事業】

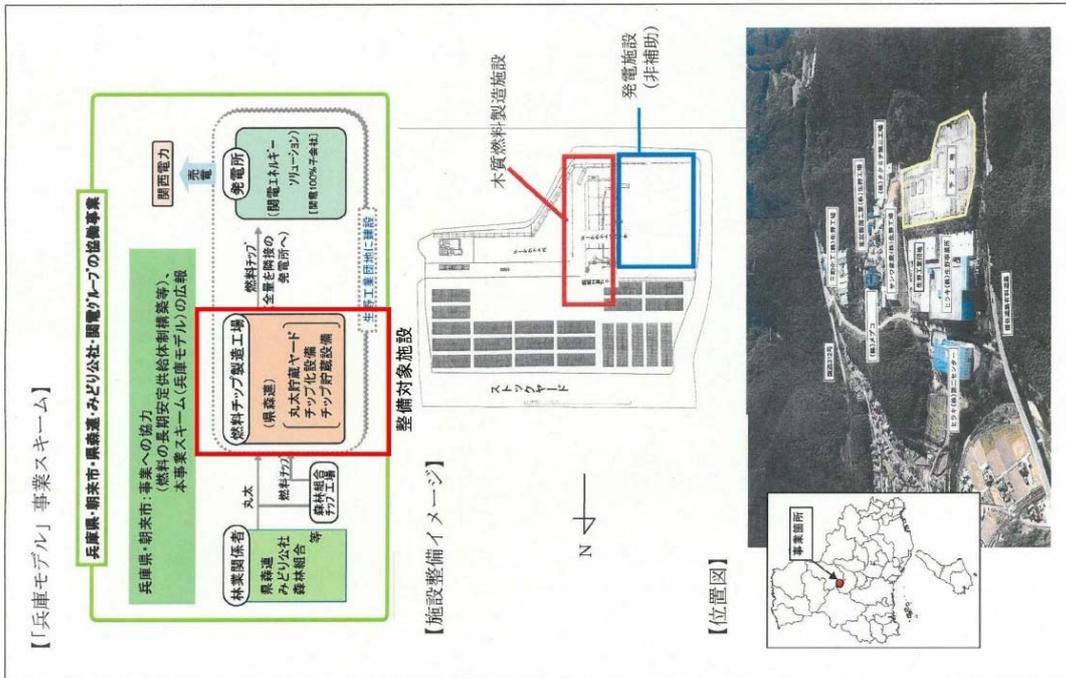
朝来市生野町真弓地区

農政環境部
農林水産局林務課

投資事業評価調書（新規）

部課室名	農政環境部 農林水産局 林務課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 築山佳永 (木材利用班長 土井幸亮)	内線	4100 (4102)
------	-----------------------	---------------------	--------------------------	----	----------------

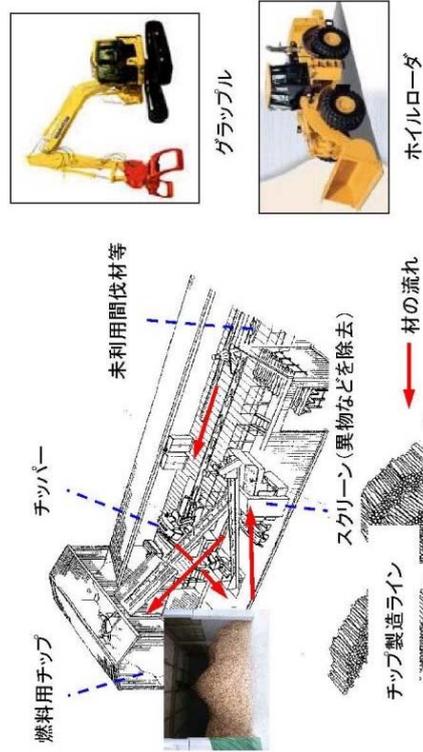
事業種目	木質バイオマス供給施設	事業名	事業区間		総事業費	3.0億円
		木質バイオマス利用促進事業	朝来市生野町真弓地区		内用地補償費	0億円
所在地			事業採択 年 度	着手予定 年 度	完成予定 年 度	
朝来市生野町真弓地区（生野工業団地内）			27年度	27年度	27年度	
事業目的			事業内容			
兵庫県森林組合連合会等林業者と発電事業者（関電グループ）、県・朝来市が協働で推進する「兵庫モデル」による木質バイオマス事業計画（未利用間伐材等の収集運搬から燃料チップの製造及びバイオマス発電までを行う一連の計画）を推進するため、発電所に隣接して兵庫県森林組合連合会が建設・運営するチップ加工施設等の整備を支援する。			<p>【木質バイオマス発電所に供給する燃料用チップ製造施設の整備】</p> <p>事業主体 兵庫県森林組合連合会</p> <p>整備内容 木質燃料製造施設・作業用機械一式</p> <p>負担割合 国 50%, 県 7%, 事業主体 43%</p>			
評価視点	評価結果の説明					
(1)必要性	<p>本取組は、第4次兵庫県環境基本計画や第3次兵庫県地球温暖化防止推進計画が推進している再生可能エネルギーの導入拡大に資するものである。</p> <p>また、未利用系の木質バイオマス利活用は、「新兵庫県バイオマス総合利用計画」で重点事項となっている。（市もバイオマス活用推進計画を策定済）</p> <p>同時に、木質バイオマスの利活用は、森林所有者等に新たな収入を生み、長期的視点に立った林業経営の推進につながることから、「伐採、植栽、保育の林業生産サイクル」が円滑に循環し、森林の多面的機能を持続的に発揮させる「資源循環型林業」の構築に資するものである。</p> <p>このように、本取組は、地球温暖化防止に寄与するうえに、「ひょうご農林水産ビジョン2020」で掲げた「ひょうごの「農」を再生する23施策」の「バイオマス等の利活用促進」と「資源循環型林業の構築」を同時に進めるものであり、その必要性は極めて高い。</p>					
(2)有効性 ・効率性 (執行環境状況)	費用便益比 B/C = 2.5					
(3)環境適合性	<p>本取組は、間伐材の有効利用を促し、森林整備を一層推進されることから、森林の持つ多面的機能の高度発揮に寄与する。</p> <p>また、チップ原料は、間伐材の梢端部分や曲がりのある部分などの林地残材であり、また、全量を県内の森林組合等から調達することから、農のゼロエミッション並びに地産地消を推進するものである。</p> <p>なお、施設は、生野工業団地内（敷地面積 3.5ha）に整備予定である。チップ製造に当たり発生する騒音・粉塵・振動などについても兵庫県森林組合連合会は自主的に環境評価を行うなど、環境面に配慮した施設導入・運営に向けて円滑に内外の調整を進めている。</p>					
(4)優先性	<p>未利用間伐材等による木質バイオマス発電計画を協働で推進するため、25年12月に県は、朝来市、県森林組合連合会、(公社)兵庫みどり公社、関西電力㈱と木質バイオマスの推進に関する協定を締結しており、計画に必要な協力を担う県の立場からも、優先性は高い。</p> <p>なお、未利用間伐材等専焼の木質バイオマス発電は、近畿地方で初となる。</p>					



施設整備

項目	内容
木質燃料製造施設	チップパー
	作業用建物(チップパー建屋)
	製品保管倉庫
	貯木場整備
	管理棟(木造)
作業用機械	グラブプル、ホイロローダ等

施設整備・機械導入イメージ



工程表

スケジュール

区分・事業種目	H26	H27	H28	備 考
区分：近代化施設 事業種目：木質バイオマス供給施設	ストックヤード整備	木質燃料製造施設等整備	稼 動	事業主体 ：兵庫県森林組合連合会 H26ストックヤード整備は、森林林業緊急整備事業で実施

※併行して同一敷地内に関西電力グループが発電プラントを整備

項 目	H26	H27	H28	備 考
発電プラント	設計・発注	設備据付	稼 動	事業主体 ：(株)関電エネルギーソリューション ※非補助

投資効率B／C根拠説明資料

便益（B）の項目

B (便益)	算出方法
①生産向上効果 燃料用チップの生産量が増加する効果	(計画年間生産量－現況年間生産量) × (現況販売単価－現況の単位当たりの生産費用)
②雇用創出効果 新たな雇用の場が創出される等雇用が増大することにより所得が向上する効果	(雇用人員 × 労務単価 (月給) × 雇用月数) － 当該施設の雇用により失われる収入

投資効率（B／C）算出根拠

事業名	B (便益)		総費用 C (百万円)	事業費 (百万円)	事務費 (百万円)	B/C
	便益額(百万円)	代表的な効果				
木質バイオマス利用促進事業	①生産向上効果	54.0	300	300	-	2.5
	②雇用創出効果	20.7				
	計	74.7				